

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：32617

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25870725

研究課題名(和文)三教交渉文献のテキストデータ集成と訳注

研究課題名(英文)Translation and digitalization of literatures about Chinese three teachings

研究代表者

藤井 淳(FUJII, JUN)

駒澤大学・仏教学部・准教授

研究者番号：00610726

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、最澄・空海が日本にもたらした中国・唐代の文献『三教不斉論』に訳注をほどこし、『三教指帰』注釈書をテキスト化することを目的とした。  
 具体的には、(1)『三教不斉論』を詳細な注釈とともに現代語訳して刊行した。(2)『三教指帰』注釈書の一部を近代以降に刊行された本をもとにテキスト化した。(3)平成26年度には国際仏教学会(ウィーン)、平成27年度には国際宗教学会(ドイツ・エアフルト)に出席して、成果を発表した。

研究成果の概要(英文)：This research project aimed to translate Sanjiao buqilun into Japanese with notes and digitalize commentaries of Sango shiiki. In order to attain these aims, the following research activities were carried out: 1) Publishing of research of on Saicho and Kukai's version of Sanjiao buqilun with detailed notes and papers. 2) Digitalizing some of commentaries of Sango shiiki. 3) Attending and reading papers at the Congress of the International Association of Buddhist Studies in Wien in 2014 and at the International Association for the History of Religions in Erfurt in 2015.

研究分野：人文学

キーワード：三教交渉 三教指帰 最澄 空海 三教不斉論

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 中国の宗教である儒教・道教・仏教が(特に道教・仏教が)それぞれ優位を主張し論争を行ってきた三教交渉資料について主要なものは 50 年前には語釈を含めて刊行物や学術雑誌において掲載されてきた。

およそ 50 年前には敦煌文献の三教交渉資料(劉晏『三教不斉論』)が翻刻されているが、近年整備が進んだ国際敦煌プロジェクトのWEBによって、敦煌文献に容易にアクセスすることが可能になり、既に 1960 年に指摘された翻刻の誤字なども訂正が必要とされる状況にある。

そして日本においては研究代表者が 2009 年に検出した『三教不斉論』の他に『伝法記』(石山寺所蔵、影印と翻刻が既に公刊)、『三教優劣伝』(江戸初期刊本、牧田諦亮氏翻刻)など、中国で失われたり、異読のある三教交渉文献が存する。

現在は以前になされた翻刻であっても影印・WEBの画像で確認し訂正した新たな形でテキストデータとして三教交渉資料を集成し、また訳注を加える必要のある時期に来ている。

研究代表者は博士課程において空海研究に従事し、博士論文を公刊した。その後、日本学術振興会 PD の期間に三教交渉関係の研究蓄積のある京都大学人文科学研究所において研究に従事した。これらの経験を踏まえ、三教交渉文献をテキストデータとして集成し、訳注を進め、さらにわが国における研究を国際的に周知する必要がある。

(2) 岩波古典文学大系『三教指帰・性霊集』(宮坂宥勝・渡辺照宏校注)に対する入矢義高氏の書評や福永光司氏『日本の名著 最澄・空海』(1977 年、中公パックス)によって厳しく指摘されたように、従来互いに不十分な面もあった中国学・仏教学の研究者双方の交流に加えて、国際的な協力も距離的制約を超えて可能になった現在、オンラインを含めた研究協力体制が構築されるべきである。

空海『三教指帰』に関しても、日本では長い注釈の伝統があり、注釈書には既に本文が失われた重要な逸文が含まれていることが知られている。そこでこれらに対してデータベース化して集成していく必要がある。その過程において、中国の逸文や日本に知的伝統について考察することが可能となる。

『三教指帰』の注釈は『三教指帰注』(承久本)『三教勸注抄』巻一・巻二(藤原敦光)『三教指帰註刪補』(運敞)『三教指帰簡註』

(通玄)以上真言宗全書所収、『三教指帰覚明注』・『三教指帰注集』(成安集、佐藤義寛氏翻刻)、太田次男氏による『三教勸注抄』巻五の翻刻などおよそ出そろった現在としてはテキストデータベースとして整備される時期にきている。これらには中国において既に失われた貴重な逸文が含まれ、国際的にも日本における注釈の伝統とその価値を知らしめる必要がある。

## 2. 研究の目的

(1) 研究代表者は従来未詳とされてきた空海請来(及び最澄将来)の姚[ハソ]『三教不斉論』を 2009 年に検出し、その翻刻を発表した。本研究では、同書に対して訳注作業を行うとともに、敦煌文献や日本所在の中国における三教交渉関係の文献を集成してオンライン上で閲覧可能なように整備することを目的とする。

(2) 唐代以前の三教交渉研究については国際的に見ても日本に最も研究上の蓄積があり、また今回の『三教不斉論』発見に見られるように三教交渉の残存資料も日本に存在する。さらに国際敦煌プロジェクトによって三教交渉資料を含む敦煌文献に対するアクセスが飛躍的に容易になった。このような状況を踏まえて姚[ハソ]『三教不斉論』を初めとする三教交渉資料の訳注作業を進めると共に、空海『三教指帰』に対する諸注釈をテキストデータした上で、これらの三教交渉資料を俯瞰し、儒仏道の三教交渉について新たな角度から思想的に考察を加えることを目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 『三教指帰』注釈書(『三教指帰』敦光注・『三教指帰注集』・『三教指帰註刪補』)を真言宗全書や刊行された図書・雑誌から ABBYYFineReader などの OCR 自動認識機能を用いて一旦テキスト化する。

その上で大学院生や修士課程修了・博士課程修了の研究者の協力を得ながら入力・校閲を行う。

(2) パネル発表・シンポジウムを開催して国内外の研究者から知見を求める。

(3) 『三教不斉論』の現代語訳および出典などの注釈を付するために読書会を開催する。

## 4. 研究成果

(1) 最澄・空海が日本にもたらした中国・唐代の文献『三教不斉論』を研究代表者以外に中国学・敦煌文献・北魏石窟・五代禅宗の専門家 4 名の若手研究者を加えて読書会を国内外で行い、詳細な注釈を付して現代語訳し、それぞれの専門の立場から関連する論文を付し、『最澄・空海将来『三教不斉論』の研

究』として刊行した。同書は日本学術振興会より平成 27 年度研究成果公開促進費を得ることができ、2016 年 1 月に国書刊行会より出版された。

同著の目次は以下のとおりである。

はじめに  
凡例

本文篇  
影印  
西南院本（高野山別格本山西南院所蔵）  
諸橋文庫本（東京都立中央図書館諸橋文庫所蔵）

校訂テキスト  
訓読  
現代語訳

論文篇  
唐代宗教史の結節点としての姚[ベン]三教不斉論』……藤井淳  
姚[ベン]三教不斉論』執筆の経緯と三教論争における位置づけ  
あわせて空海『三教指帰』序文への影響をも論じる……村田みお  
法琳の著作との比較から見た姚[ベン]三教不斉論』の特徴について……倉本尚徳  
劉晏述『三教不斉論』の再検討……池田将則  
『三教不斉論』と『三教優劣伝』……柳幹康  
最澄・空海請来になる姚[ベン]『三教不斉論』より得られた知見について……藤井淳  
執筆者略歴  
中文要旨  
英文要旨

同書には未公開の影印二本を付し、現在知られている『三教不斉論』の写本三本が全て公開されることになり、研究者に便宜を図った。

また『三教不斉論』の用語について出典などの詳細な注釈を付した。同文献は内容が儒教・道教・仏教にわたるものであり、多くの専門家が加わることで一つの専門分野の研究者では気がつかない注釈をつけることができた。これにより本文読解のための基礎的な情報を十分に提供しえたと考えている。

また論文には英語訳要旨・中国語訳要旨を付し、国際的にも注目される同文献の研究へのアクセスが容易になるように配慮した。

敦煌文献である『小乘録』(S5645)『法王記』(P2722 背)も池田将則氏によって同書の中で翻刻された。さらに同氏は出典調査から敦煌文献の劉晏『三教不斉論』の位置づけについて見直しも行った。

本研究および出版を通じて、三教交渉文献の研究のためには多くの専門分野の研究者が集まって読書会を開催する意義が改めて

確認された。

(2)『三教指帰』注釈書を近代以降に印刷された本をもとに OCR 機能を用いてテキストデータ化し、大学院生や研究者の協力を得て修正を行った。また未詳とされていた出典についてもデジタルデータを利用して検索し、一部同定した。現在公開に向けて準備中である。

(3)駒澤大学図書館が所蔵する江戸時代に刊行された『三教指帰』注釈書 3 点の写真を図書館に依頼し同館のホームページ（電子貴重図書・古典籍の項）において公開した。

(4)2015 年 2 月に大学コンソーシアム京都において『三教不斉論』に関するシンポジウムを行い、研究代表者が班長を勤めていた京都大学人文科学研究所共同研究班の国際シンポジウムのために来日した海外（ニュージーランド・韓国）の研究者が参加した。

(5)ヨーロッパで開催された国際学会においても 2 回発表を行い、『三教不斉論』の検出を英語で報告し、また中国宗教を思想史的・研究史的観点から位置づけるために一神教と多神教の理解についても見直しを行い、英語で発表した。

(6)伊勢神道撰述書『大元神一秘書』に引用される唐代の儒者が著した『老子述義』の逸文について検討を加え、『老子述義』からの引用が明示されなくてもその引用の方法が断章的になっていることやその思想的傾向から、従来指摘されている以外にも『老子述義』の逸文と考えられる箇所があることを指摘した。報告者は道家・道教の定義についても再考する必要があると考えているがその基礎作業となった。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

藤井 淳、夏目漱石『こころ』：百年の謎を解く (4)、駒澤大学仏教学部論集、査読無、46、2015、pp.207-229、<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/35612/rbb046-07-fujii.pdf>

藤井 淳、夏目漱石『こころ』：百年の謎を解く (2)、駒澤大学仏教学部研究紀要、査読無、73、2015、pp.111-123、<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/34874/jbk073-04-fujii.pdf>

藤井 淳、他力の信の継承：親鸞から善鸞へ、印度學佛教學研究、査読有、63(2)、2015、pp.566-572、<http://ci.nii.ac.jp/naid/11000992289>

0

藤井 淳、夏目漱石『こころ』：百年の謎を解く(3)、駒澤大学佛教文學研究、査読有、18、2015、pp.203-230、<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/34568/kbb018-09-fujii.pdf>

藤井 淳、夏目漱石『こころ』：百年の謎を解く(1)、駒澤大学仏教学部論集、査読無、45、2014、pp.221-240、<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/34497/rbb045-08-fujii.pdf>

藤井 淳 他、儒仏道三教交渉研究の新展開：最澄・空海将来姚[ベン]撰『三教不斉論』を中心として、印度學佛教學研究、査読有、62(2)、2014、pp.789-788、<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009807202>

藤井 淳、伊勢神道撰述書『大元神一秘書』と『老子述義』、駒沢大学仏教学部研究紀要、査読無、72、2014、pp.71-86、<http://repo.komazawa-u.ac.jp/opac/repository/all/33910/jbk072-02-fujii.pdf>

〔学会発表〕(計 4 件)

藤井 淳 他、儒仏道三教交渉研究の新展開：最澄・空海将来姚[ベン]撰『三教不斉論』を中心として、日本印度学仏教学会第 64 回学術大会パネル発表、2013 年 9 月 1 日、鳥根県民会館(松江市)

藤井 淳、他力の信の継承 親鸞から善鸞へ、日本印度学仏教学会第 65 回学術大会、2014 年 8 月 30 日、武蔵野大学(東京都)

Jun FUJII, The 17th Congress of the International Association of Buddhist Studies, Discovery of a Text Comparing the Three Teachings Written in the Tang Dynasty in Japan, 2014 年 8 月 22 日、Universität Wien(オーストリア、ウィーン)

Jun FUJII, The 21th IAHR World Congress The International Association for the History of Religions, Discourses about exclusive monotheism, 2015 年 8 月 25 日、Universität Erfurt(ドイツ、エアフルト)

〔図書〕(計 2 件)

藤井 淳 他、国書刊行会、最澄・空海将来『三教不斉論』の研究、2016、364(i-xvi,171-208,341-349)

藤井 淳 他、法蔵館、妙貞問答を読む 2014、487(192-205,292-299)

〔その他〕

ホームページ等

<https://www.komazawa-u.ac.jp/~junfujii/>  
駒澤大学図書館・電子貴重書庫 古典籍の項  
<http://repo.komazawa-u.ac.jp/retrieve/kityou/05-koten.html?tm=1465385185520>

10. 三教指歸註 7 卷

11. 三教指歸刪補鈔 9 卷(存 8 卷)

12. 三教指歸文筆解知鈔 3 卷 2 冊

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤井 淳 (FUJII, Jun)

駒澤大学・仏教学部・准教授

研究者番号：00610726

(4) 研究協力者

(『最澄・空海将来『三教不斉論』の研究』  
2016 年 1 月出版時の肩書)

池田将則 (IKEDA, Masanori)

韓国・金剛大学仏教文化研究所人文韓国研究  
センター研究教授

倉本尚徳 (KURAMOTO, Shotoku)

台湾中央研究院歴史語言研究所助研究員

村田みお (MURATA, Mio)

立命館大学言語教育センター外国語囑託講  
師

柳幹康 (YANAGI, Mikiyasu)

日本学術振興会海外特別研究員